

## 2024年度 編入学試験 解答例

## &lt;経営学部 経営学科&gt;

## 1.

## (テイラーの科学的管理法)

テイラーは、経験や勘に頼っていた従来の管理を排し、作業を要素分解した「時間研究・動作研究」に基づく客観的な標準作業量（課業）を設定しました。また、課業の達成度に応じた「差別的出来高給制度」を導入し、経済的インセンティブによる生産性の向上を図りました。

課題として、人間を機械の歯車のように扱う「人間不在」の管理であり、作業の単調化による労働意欲の低下や、働く喜びの喪失を招く点が批判されました。

## (メイヨーの人間関係論)

ホーソン実験を通じて提唱された理論です。生産性は物理的な作業条件よりも、労働者の感情や態度、職場内のインフォーマルな組織（非公式組織）、および周囲からの注目といった心理的・社会的な要因に強く影響されることを明らかにしました。

課題として、職場の人間関係を重視するあまり、組織としての公式な構造や目標達成への論理的側面、あるいは労働条件といった経済的要因の影響を軽視しすぎる傾向がある点が指摘されています。

## 2.

イノベーション普及理論では、新商品の普及過程において消費者を「採用時期」の早い順に5つのグループに分類している。各グループの特徴と攻略法は以下の通りである。

第一に、イノベーター（革新者）は、新しさそのものに価値を見出す層である。彼らには「最先端技術」や「未体験の価値」を訴求し、試験的なユーザーとして巻き込むことが有効である。

第二に、アーリーアダプター（初期採用者）は、流行に敏感で社会的な影響力を持つオピニオンリーダーである。彼らに対しては、商品がもたらす具体的なベネフィットを提示し、先行して所有することの優越感や社会的評価を高めるアプローチが求められる。

第三に、アーリーマジョリティ（前期追随者）は、実利を重視する慎重な層である。攻略には、先行するアーリーアダプターの活用事例や「普及の兆し」を提示し、採用に伴うリスクへの不安を払拭することが不可欠である。

第四に、レイトマジョリティ（後期追随者）は、周囲の大多数が採用したことを確認してから動く保守的な層である。彼らには「周囲の利用率」や「標準化された安心感」を強調し、採用しないことによるデメリットや不便さを認識させることが効果的である。

第五に、ラガード（遅滞者）は、伝統を重んじ変化を拒む層である。彼らに対しては、新しさを強調するのではなく、既存の生活習慣との親和性や、もはや一般的であるという事実を自然な形で伝える必要がある。

特にアーリーアダプターとアーリーマジョリティの間には「キャズム」と呼ばれる深い溝が存在するため、実利層へ普及させるには、信頼性の確立と成功事例の蓄積による攻略が極めて重要となる。

## <法学部 法律学科>

### 問 1.

#### （憲法と条約の関係）

憲法 98 条 2 項の「条約の遵守義務」を根拠に条約優位説もあるが、通説・判例（砂川事件等）は憲法優位説を採る。高度に政治的な条約は一見極めて審査されにくい、明白に違憲であれば憲法が優先される。例えば、基本的人権を根本から侵害するような条約が締結された場合、憲法の最高法規性（98 条 1 項）に基づき、その条約の国内的効力は否定されるべきとされる。

#### （法律（国内法）と条約の関係）

これについては条約優位説が通説である。国際協調主義（憲法前文、98 条 2 項）の観点から、国が国際的に約束した条約は、国内法よりも強い効力を持つ。

#### （具体的事例）

通商条約や租税条約が挙げられる。国内の税法で特定の税率が定められていても、二国間の租税条約で異なる軽減税率が合意されていれば、条約の規定が優先して適用される。また、国際人権規約に抵触する国内法がある場合、立法や解釈を通じて条約の趣旨に沿うよう修正が求められる。

### 問 2.

#### （概念法学）

意義：法体系を論理的に完結した組織と捉え、既存の法概念から演繹的に結論を導き出す。法的安定性と予測可能性を高める点に大きな意義がある。

課題：形式的な論理操作に固執するため、「法の欠缺（穴）」や社会情勢の変化に対応できず、具体的妥当性を欠く「概念の天国」に陥る危険がある。

（自由法学）

意義：概念法学への批判として誕生した。法文のみに縛られず、裁判官が社会の実情や正義感に基づき、自由な法発見を行うことを重視する。

課題：裁判官の主観に委ねられる部分が大きいため、法的安定性が損なわれ、恣意的な裁判を招く恐れがある。

（歴史法学）

意義：サヴィニーらにより提唱された。法は立法者の恣意で作られるものではなく、言語と同様に「民族精神」に基づき歴史的に形成されると説いた。当時の安易な法典編纂に警鐘を鳴らした点に意義がある。

課題：過去の伝統を神聖視しすぎるあまり、現代社会が必要とする急進的な改革や、普遍的な理性に基づく法整備を阻害する保守主義に繋がる側面がある。

<文学部 人間学科>

解答なし（小論文のため）

<教育学部 教育学科>

<教育学部 児童教育学科>

設問1

(1)

( ) にあてはまる言葉： ポール・ラングラン

生涯教育は、1965年にユネスコの成人教育推進国際委員会でラングランによって提唱されました。1981年の中央教育審議会答申「生涯教育について」では、生涯教育を「生涯学習を支援するための行政側・制度側の仕組みや施策」として位置づけました。一方、生涯学習は「個々人が自発的に生涯を通じて行う学習活動」を指します。つまり、国民一人ひとりの主体的な「学習」を核とし、それを社会全体で支える「教育」の体制を整えるという、相互補完的な関係として整理されました。

(2)

( ) にあてはまる言葉： 複線

学校制度は、身分によって通う学校が異なる「複線型」から、初等教育後に進路が分かれる「分岐型」、そして教育の機会均等を目指す「単線型」へと移行してきました。

複線型や分岐型の問題点は、教育が社会階層の固定化を招く点にあります。家柄や経済状況によって受けられる教育に格差が生じ、個人の能力や適性に応じた進路選択が制限されてしまいます。これは、現代民主主義の根幹である「教育の機会均等」の理念に反し、社会的な不平等を助長する要因となります。

(3)

( )にあてはまる言葉： 人間

教育の人間主義は、私たち人間がその生きる働きとして、常によく生きようとしているとの見方に立って、これをいっそう自覚的かつ旺盛にしようと思わせる考えです。教育の現実主義は、既存の社会に当たり前に「よい」とされていることを、子どもに理解させたり、身につけさせたりするように、働きかける考えです。教育の理想主義は、現実にはない理想としての「よさ」の理解と習得を迫ります。これら2つの主義では、「よさ」は子どもとは無関係に規定されます。これらとは異なり、教育の人間主義は、子どもこそが「よさ」の決定主体であり、それを決定できる力があるところから出発します。村井実は古典期を参照することで、現実と理想との対比で、教育の人間主義を描出しました。

(4)

( )にあてはまる言葉： 包含 / 非包含

「教えの包含テーゼ」とは、教えという行為は、予期した学習が生起したときにのみ「教えた」と言えるとする考え方です。

「教えの非包含テーゼ」とは、予期した学習が成立したかどうかにかかわらず、教える側が学習を促す意図をもって働きかけたならば「教えた」と言えるとする考え方です。

これらの違いは、「教え」の定義を「結果」に置くか、それとも「意図的な行為の遂行」に置くかにあります。包含テーゼでは、教えは学習の生起と不可分の関係にあります。非包含テーゼでは、学習が生起しなかった場合でも、その教育的営み自体を教えとして認めるため、教えと学習とを切り離して捉える立場をとります。

設問2

(1)

( )にあてはまる言葉： 傍観者

この現象は「傍観者効果」と呼ばれる。主な原因は以下の2点である。

責任分散：自分以外に多くの人がいることで、「誰かが助けるだろう」と考え、一人ひとりの責任感が薄れてしまうこと。

社会的比較（評価懸念）：周囲の反応をうかがい、誰も動かない状況を見て「助ける必要はない」と判断したり、行動して失敗することを恐れたりすること。

多元的無知：周囲の人の様子を見て、「他の人が動いていない＝緊急ではないのだろう」と判断してしまう現象です。

(2)

( ) にあてはまる言葉：シエマ

ピアジェは知識の構造を「シエマ」と呼んだ。

同化の例：果物を「甘いもの」というシエマで理解している子どもが、メロンを食べて「やっぱり果物は甘い」と考える。

調節の例：同じ子どもがレモンを食べて「すっぱい」と感じ、「果物なのに甘くないのはおかしい」と戸惑うが、

「果物にはすっぱいものもある」と理解し、

「果物＝甘いもの」というシエマを修正する。

(3)

( ) にあてはまる言葉：操作的

心理学的測定には「操作的定義」がしばしば用いられる。

信頼性の例：同じ性格検査を日を改めて二度行い、ほぼ同じ結果が出れば、その測定の安定性（信頼性）が高いと言える。

妥当性の例：計算能力を測るテストにおいて、国語の読解力が必要な難解な文章題ばかり出すと、本来測りたい「計算力」を正しく測れていないため、妥当性が低いと言える。

(4)

( ) にあてはまる言葉：マズロー

マズローは欲求を以下の5段階のピラミッド状に構成されると考えた。

生理的欲求：食欲や睡眠など、生命維持のための根源的な欲求。

安全欲求：身体の安全や経済的安定を求める欲求。

社会的欲求（所属・愛）：集団に属し、他者から受け入れられたい欲求。

承認欲求：他者から認められ、尊敬されたい欲求。

自己実現欲求：自分の持つ能力を最大限に発揮し、あるべき自分になりたい欲求。

下位の欲求が満たされると、より上位の欲求が現れるとされる。

<理工学部 情報システム工学科>

1. (1)  $\frac{1}{3}$       (2)  $\frac{\sqrt{2}}{4}$       (3)  $e^2$

2. (1)  $y' = 5x^4 - 3x^2 + 1$       (2)  $y' = 2e^{4x} \left\{ 2\log(x^2 + 1) + \frac{x}{x^2 + 1} \right\}$

(3)  $y' = \frac{x + 2}{2(x + 1)\sqrt{x + 1}}$

3. (1)  $\frac{81}{10}$  (または 8.1)      (2)  $\pi$       (3)  $e$

4. (1)  $ABC = \begin{pmatrix} -129 \\ 61 \end{pmatrix}$

(2) 定義できるもの : (f)      計算結果 :  $(-129 \quad 61)$

(3)  ${}^t C {}^t B {}^t A = {}^t(ABC)$

5. (1) 
$$\begin{cases} 6x + 5y + 4z = 16700 \\ 2x + 4y + 5z = 12000 \\ 25x + 20y + 18z = 69400 \end{cases}$$
      (2)  $x = 1000, y = 1500, z = 800$